



会 議： 国際海事機関（IMO）第 107 回海上安全委員会（MSC 107）  
開催場所： 国際海事機関（IMO：英国ロンドン）及びオンラインのハイブリッド  
会議期間： 2023 年 5 月 31 日～6 月 9 日  
海技研からの出席者：宮崎 恵子 国際連携センター長



当所からの出席者  
宮崎



MSC 前日に開催された IMO と韓国による自動運航船シンポジウム※  
モデレータを担当 講演者並びに海上安全部長との記念撮影



※ IMO Flickr: The Symposium on "Making headway on the IMO MASS Code" is co-hosted by IMO and the Republic of Korea (30 May 2023) CC (Creative Commons) BY 2.0

概要：海上安全委員会（MSC 107）は、

- 全閉囲型救命艇の換気装置の設置を義務づける国際救命設備コード（LSA コード）の改正案を採択した。
- 自動運航船（MASS）の国際ルールについて、更なる検討を行った。

## 主な貢献

宮崎は、自動運航船のためのゴールベース型規則の策定に係る議題を担当し、その作業部会（WG）にも参加し、審議に貢献した。また、MSC 107 に先立って当該議題の提案文書の概要をまとめ、対処方法の検討にも貢献した。一方、MSC 107 前日に開催された IMO と韓国が共同で開催した自動運航船のシンポジウムで、セッションの一つにおいてモデレータを担当した。

## 主な審議結果

当所職員が担当した議題の主な審議結果は以下の通りである。他の事項及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

### 1 自動運航船のためのゴールベース型規則の策定

昨年 5 月の MSC 105 では、自動運航船の国際ルール策定に向けて、将来的な義務化を見据えつつ、まず非義務的なルールを策定していくことが合意された。同年 10 月の MSC 106 では、非義務的なルールの審議が開始され、策定作業の一貫性を担保するため、達成すべきゴール（目標）を設定し、それを満たすための機能要件を求めていくゴールベース型で規則を策定することが合意され、また、骨子案が原則合意された。この自動運航船の国際ルールは、航行、遠隔操船、防火等の各セクションに分けられ、それぞれのセクションは複数の国や国際団体から成る自発的なグ



グループにより策定されている。我が国は、主要な航行セクションのリーダーを担当し、メールベースで審議を行う会期間通信作業部会（CG）において議論を主導し草案を作成した。

今次会合では、各グループが共通認識に基づいてそれぞれのセクションの草案の検討を進められるよう、自動運航船特有の重要な用語の草案が合意され、自動運航船とその機能の基本原則について、各国の提案等に基づき詳細な審議が行われた。引き続き、CG 及び今年 10 月開催予定の会期間作業部会にて審議が行われる予定である。

## 2 次回会合

次回の海上安全委員会（MSC 108）は、2024年5月15日～24日に開催される予定である。

以上